ふくしま創生人財育成事業
「令和４年度ふくしま創生サミット」実施報告

１　概要及び目的

４月２８日（木）に「ふくしま創生サミット」を開催した。昨年は、福島県自治会館で全県一堂に会して開催したが、今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から Zoom を利用したオンライン方式で開催した。当日は、各校からの代表生徒が、自分たちが暮らす地域についての理解を深めた。

当サミットは、生徒たちが主権者として社会の中で自立するとともに、地域の課題解決に向けて他者と連携・協働しながら、主体的に考えて行動できる力を身に付けさせることで、地方創生の一員として郷土に貢献する人材を育てることを目的としている。

現在、地域課題探究活動は、全ての県立高等学校で実施している。各校での地域課題探究活動の取組を共有する場を設けることで、取組の意義や地域の魅力・課題を再発見するとともに、課題解決に向けた探究活動を継続する意欲を醸成し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学び全体の改善を目指すことも、当サミットの目的である。

２　当日経過

午前中は、複数のグループに分かれ、各校または各個人が取り組んできた地域課題探究活動を共有した。午後からは、「ふくしまの良さを伝える方法を話し合おう」というテーマの下で、地区ごとで意見交換を行った後、各地区の代表者が全体に対して協議内容を発表した。協議の後には、活発な質疑応答も行われた。福島大学の前川直哉先生からは、「他地区の人や他校の人と話すことは意義がある。今回のサミットも充実しており、相次いで質問が出たのもうれしい。高校生は、大人の掌を飛び出して、自分たちで大人を巻き込んでいって欲しい。」との指導・助言をいただいた。

参加者からは、「他校の活動を学ぶことで自分では思いつかなかった考え方や観点に触れることができた」や「高校生自身が地域の良さを知ることが大切だ」などの感想が寄せられた。

以下に、当日の活動の様子をまとめましたので、各校において今後の地域課題探究活動の充実に役立てていただきたいと考えます。

【　教育長挨拶　】

【　協議　】

【　質疑応答　】

３　協議内容

（１）各校における地域課題探究活動

●広報・ＰＲ

・キャッチコピー作り
・観光パンフレット作成
・町特産物のＰＲ
・新聞制作（１８歳成人、東日本大震災、安積疎水、ヤングケアラー等）
・地元の名所ボランティア（オリジナルパンフレット等）
・地元飲食店の情報誌制作
・地域に関する学習教材動画の制作（YouTube）
・駅周辺のマップ作り

●地域への理解を深める

・地域の巡検
・伝統工芸や食文化の調査
・地域のバリアフリーの実態調査
・地元企業の現状の調査
・地域の特産物の調査
・ハザードマップに基づく災害の危険性の調査（現地調査を含む）
・ふくしまナラティブ・スコラへの参加と語り部との交流
・地域の歴史や観光の研究
・地域の公共交通機関の調査
・登山道の改善のためのアンケート
・和紙を使った商品作り
・伝統和紙での卒業証書制作
・地域医療や地域振興に関する講演
・地域の農業に関する講話（トマト、木材）
・地域の少子化の原因分析
・県内で活躍するロールモデルへの取材
・地域課題のピックアップ（交通事情、治安等）

●農業や食に関する取組

・パン作り
・農産物栽培飼育と販売（食の安全、風評払拭）
・ＪＡＳ認証取得
・０円食堂の実施
・カフェ作り
・地元産野菜の魅力発信
・和菓子作りによる地域交流

・蕎麦作り
・六次化商品の開発
・ＧＡＰ認証取得
・田んぼアートの制作
・食品ロス削減
・医療機関への鉢植えのプレゼント
・企業との共同開発商品の販売（まんじゅう、タルト、ジュース、漬物、石鹸等）
・オリジナルメニューの開発と地域のレストランとの連携
・新風味サブレの商品化
・野菜アンバサダーセミナーの実施
・地元企業との商品開発（石鹸、ドライトマト、弁当等）
・「ご当地パン」の開発（地元企業との連携を含む）

●子ども・高齢者・障がい者への支援
・保育園や介護施設へのプレゼント
・水害の研究と防災教育用木製パズルの製作
・高齢者向けのサービスやバリアフリーの研究
・小学生との交流（ダンス）
・障がい者施設でのボランティア
・読み聞かせボランティア
・募金活動と子どもへのクリスマスプレゼント（子ども食堂）
・子ども見守り隊
・幼稚園との交流（絵本プレゼント、落花生の栽培体験）
・アルミ缶回収と老人ホームへの車椅子寄贈

●環境問題、ＳＤＧｓ
・ＳＤＧｓに係るポスターセッションや動画・パンフレット作成
・ＳＤＧｓや震災・減災に関する講演会
・節電活動
・エコキャップ回収活動
・福島議定書
・地域に適した住宅の研究
・ポイ捨て対策の効果検証

●部活動
・部活動（ダンス部）による地域活性化
・部活動の活性化

●社会問題

・ヤングケアラーの研究
・地域で子どもを育てるしくみの研究

●原発や東日本大震災、防災、エネルギー

・原子力発電と福島の復興（フィールドワークを含む）
・新たな発電方法
・震災時の空港の状況調査
・地域の防災研究（植物工場や伝承館の見学）
・再生可能エネルギーの調査と実地見学
・被災地域の実地見学と語り部との交流
・国への提言（廃炉や原発を義務教育で扱うこと）
・被災地見学ツアー参加者との交流

●行政や地域住民との連携

・洪水対策の研究と市への提言
・市の現状に関するワークショップ（市役所）
・ペットボトルツリーの制作（商工会議所）
・ 灯籠作り
・商店街の活性化（商店街振興組合）
・高齢者の健康寿命を延ばす提案
・地域のイベント企画
・地域の行事への参加
・観光対策に関する市への提言（メロディロードの設置）

●その他

・森林体験学習（伐採作業）
・古民家のリノベーション
・地域の高校合同文化祭への参加
・地域の清掃活動
・あいさつ運動
・駅メロ制作の計画
・主権者教室
・コロナ禍でのＩＣＴ教育の研究

（２）ふくしまの良さを国内外へ伝える方法

●県北地区

・地域の魅力発信による地域活性化

●県中・県南地区①

・高校生自身が魅力を知ること
・部活動の活性化
・自然の豊かさ、食材、音楽等の福島県の魅力発信
・Ｗｅｂサイトやインスタグラムでの魅力発信

●県中・県南地区②

・ＳＮＳでの発信
・地域の魅力を自分で体験すること
・高校の開設するＳＮＳを使い、高校生が福島の内側の魅力を発信すること
・高校生によるブランド商品の開発、ポスターやパンフレットの作成

●会津・南会津地区

・会津の魅力の再認識
・各学校でのＳＮＳを利用した発信
・高校生によるガイドや特産品販売

●相双・いわき地区

①伝えたいこと
・最先端技術や再生可能エネルギー等の新しい魅力
・四季の美しさと気候の違い
・コンパクトシティ化による高齢者も住みやすい街づくり
・震災
・地区で異なる風習や伝統文化

②情報発信の方法
・ホームページのデザインの工夫
・ＳＮＳの利用者の増加
・年代に合わせたパンフレット作成
・高校生によるガイド
・プロモーションビデオの制作

③高校生がすぐできること、しなければならないこと
・自分たちで地域の良さを知り、自分の言葉で伝えること
・「知る、考える、行動する、伝える」というサイクル
・他地区の高校生との交流

４　アンケート集計結果

（１）協議①・発表①は、今後のあなたの活動に参考になりましたか？

とても参考になった	参考になった	あまり参考にならなかった	参考にならなかった
７６．３％	２０．３％	３．４％	０％

（２）午後の協議②・発表②では、「高校生としてできること」について、どのような発見や気づきがありましたか？

・地域の方や大人の方を巻き込んで活動する。
・他地域の高校生と交流し、交流することでできることも多くなり、発信力を大きくすることができる。
・取り組み方や方法・観点を変えることで、できることの幅が広がる。
・ＳＮＳを利用することが大切だと思っていたが、それは若者に向けたアピールでしかないことに気づき、これから視野を広げていきたい。
・高校生だからこそ、様々な活動に取り組むことができ、大人たちよりも強いエネルギーを持って活動できると気づいた。

（３）自分の住む地域の課題解決に向けて、今後、どのような活動を行ってみたいですか？

・学校の枠をこえて福島の抱える課題や解決策を、ざっくばらんに話せる場を設けたい。
・自分で考えたことを市町村のパブリックコメントに送ることやＳＮＳを通じた魅力発信の方法を考えたい。
・幼稚園や老人ホームなどを訪問し、住民との交流を活発にする。
・読み聞かせボランティア等を通じて地域の人たちと交流を深め、福島の良さを伝える絵本を作ってみたい。
・同じ地区にある高校と共同のアカウントやホームページを作成し、交流を深めた上で情報発信を行いたい。

（４）今回、初めてオンラインで「ふくしま創生サミット」を実施しました。ご意見やご感想がありましたら、記入してください。

・新型コロナウイルスでできていなかった意見交流をする機会となり良い経験となった。
・他の人から質問を受けて初めて気づくことが何回かあって、よい刺激になった。
・オンライン上でも多種多様な価値観を持つ人と意見を共有することは有意義だった。
・たくさんの提案や意見を聞き、今後私たちがしなくてはならないことを知ることができ、勉強になった。
・あらかじめ報告書を読む時間を十分にとってから、５月下旬に開催してもよいのではないか、と思った。
・協議の前に、１０～１５分間の雑談があってから、本題に入れたら、話し合いもさらに深いものになるのではないか。
・質問する人や質問することがかなり多く、質疑応答を聞いていた私たちも「なるほど」と思うことがあったので、質疑応答の時間を増やしていただきたい。